

幼児教育の十大原理と題して、鼻地三郎氏に執筆していただいている。今月は第二回であるが、幼児教育にたずさわる多くの方がたが共感してよまれたと思う。鼻地氏は、福岡にある脳性小児麻痺児童の学園 $\parallel$ しいのみ学園の創設者として長年、実際に児童の教育指導の経験をされ、また同時に福岡学芸大学の教授として教育心理学の研究をしておられる。この十大原理は、理論からだけ生れたものでもなく、実際からだけ生れたものでもなく、理論と実際の両者からおのずから生れいでた教育原理である。幼児教育者が、よく熟読玩味すべき論文である。

幼児のための教材の研究を、継続して本誌に掲載してきたが、鼻地氏のしいのみ学園は、この点でも、幼児教育者の学ぶべきものが多い。教材教具は、子どもがそれを使っているうちに、それを通しておのずから教育されるもので、したがって、教師は教材教具を工夫することによって、子どもにはたらきかけることができる。しいのみ

学園では数百種類の教材教具を工夫して作っておられ、それは直接には幼児のためのもではないが、教師みずからが教具を工夫して作るという態度は、幼児教育者と共通のものであろう。幼児教育の大先輩であるフレールベルは、恩物という一連の教具を考案したし、また、モンテッソリも、独自の教具を作っていることを考えると、教材教具の工夫がいかに幼児教育にとつて重大な役割を果すものであるかがわかる。教具の工夫にあたっては、紙や木、粘土、塗料、接着剤、工具等の基礎的知識が必要であるので、佐藤、砂場両氏に執筆していただいている。幼児の場合には素材そのものを与えて、子ども自身が工夫してつくることとがまた重要であるが、教師が素材や工具についての基礎知識をもつことはたいせつである。今月号には、教材教具についての座談会の記事を掲載したが、教材教具については、今後も新しい知識や研究を載せたし、また、読者からも、工夫や御意見を寄せられることを期待している。

## 幼児の教育 第六十四巻 第五号

五月号 © 定価六〇円

昭和四十年四月二十五日 印刷  
昭和四十年五月 一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレールベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレールベル館にお願いいたします。